

地域日本語教育が持つ べき関連分野の視座

～多文化共生・ソーシャルワーク・通訳
の各分野が期待すること～

特定非営利活動法人国際活動市民中心
(CINGA) スペイン語相談通訳
岩田久美

こんな問題はありませんか？

事例

フィリピンから保育園の年長児に来日した男児、現在小学4年生。日本人男性と結婚した母(フィリピン人)の連れ子。低学年時から、同級生や上級生とのケンカがよくある。最近担任から、発達検査を受け、特別支援学級に移るよう勧められたようだが、母は納得がいかない。

就学時前来日だったためか、小学校での日本語指導を受けておらず、市の国際交流協会の子ども教室も継続しなかった(本人がいきたがらず、親も積極的に連れていかなかった)。

フィリピン人の母は日本語の読み書きはできず、会話もあまりできない。宿題のフォローができない。日本人の義父は子供に関わらない。

母はホテルの清掃の仕事(フィリピン人ばかりが働いているところ)や体調不良などで、子供に関わる時間は限られている。

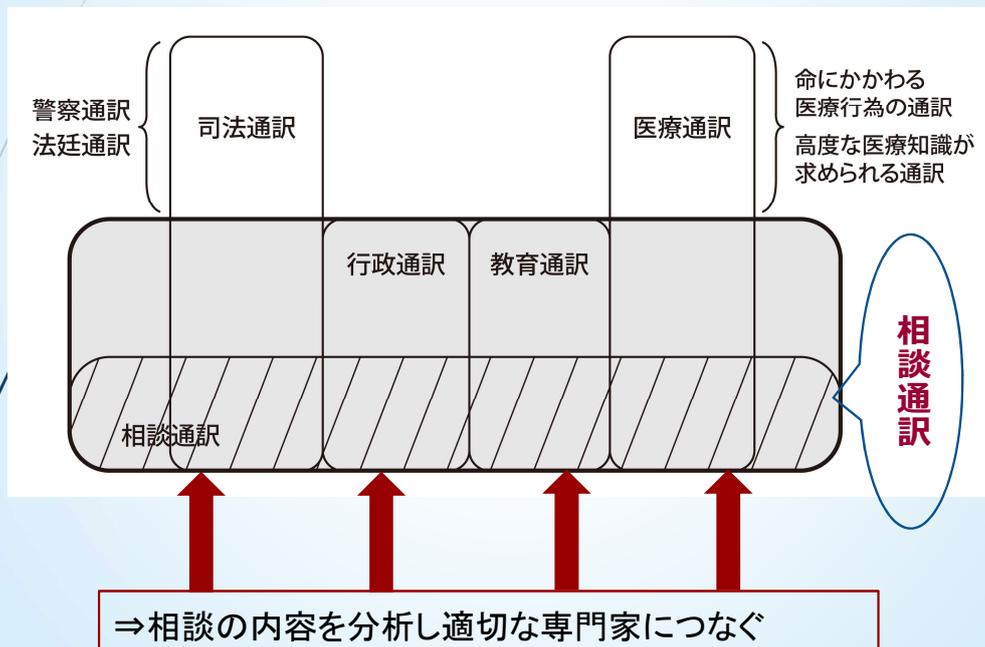
皆さんはどのようにされますか？

言葉の面での支援にはどのようなものがあると思いますか？

- ① 「やさしい日本語」でゆっくりと話を聞く
- ② 母語での支援には通訳が必要←
「発達障害」の意味を言葉で説明する場合など
- ③ コミュニティ通訳の領域

コミュニティ通訳の活動領域

相談通訳、司法通訳、行政通訳、教育通訳、医療通訳



困ったことは母語で説明する必要がある

母語でしか発信できない

思いや気持ちは母語でないと伝えることが困難。表現できない

地域の日本語教室 5つの役割

1. 情報発信
2. 外国人相談
3. 日本語学習
4. 多文化理解⇒フィリピンでは先生が絶対。
宿題もない。
5. 居場所

楽しい居場所になるということは

フィリピン人にとっても日本人にとっても、社会のために活動する場所、地域づくりになる

語学ボランティア(日本語)がコーディネーターとして協会職員に対して、つなげる役割を果たす

やさしい日本語で対応できるものも多いが
専門的な内容や相談になった場合は、母語の
通訳に入ってもらうのが良い

コミュニティ通訳の形態

相談通訳とは

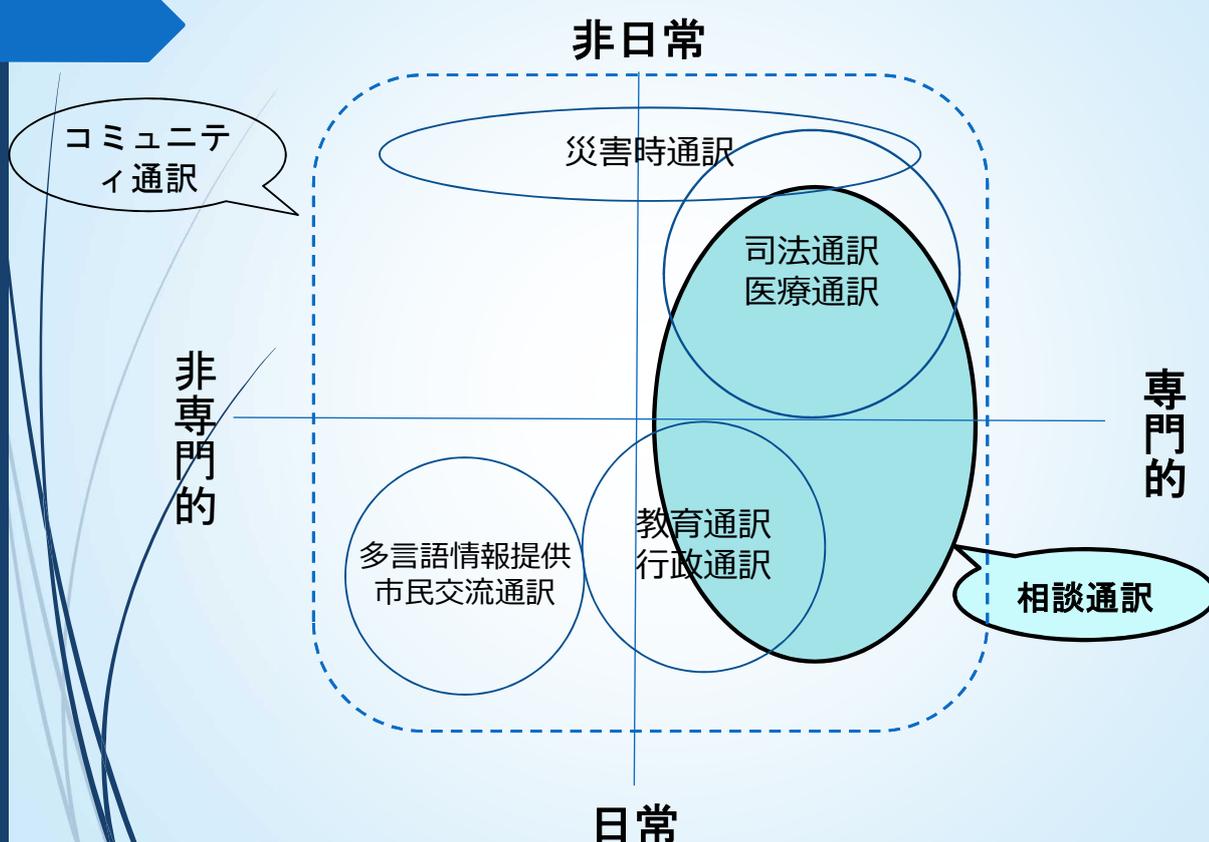
相談通訳者とは

コミュニティ通訳の活動分野である司法

・行政・教育・医療の領域において、言語間の「橋渡し役」を務める専門職

一般社団法人多文化社会専門職機構

コミュニティ通訳と「相談通訳」



コミュニティ通訳の区分と専門性

	活動内容	通訳のレベル	求められる専門性	専門性担保の必要性
①	市民交流通訳 地域の情報提供	おおよその内容を伝えられる	内容が伝わる程度の語学力	△
②	行政・教育に関する情報提供	正確に内容を伝えられる	・高度な語学力 ・日本の制度に係る知識	○
③	相談対応から 専門家相談通訳 まで (外国語相談 +専門家通訳)	・相談者の思いを受け止められる ・問題を適切に把握できる ・専門家のアドバイスを正確に伝えられる	・高度な語学力 ・ 相談通訳としての専門性(※)	◎

※相談通訳: コミュニティ通訳の中核をなす専門領域

参考文献

- 杉澤経子, 2011, 「問題解決に寄与するコミュニティ通訳の役割と専門職養成の取り組みー相談通訳の観点から」 『「相談通訳」におけるコミュニティ通訳の役割と専門性』, シリーズ多言語・多文化協働実践研究 16 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター. 12-30.
- 水野真木子、内藤稔著 2015, 『コミュニティ通訳』 みすず書房
- 杉澤経子・関聡介・阿部裕監修, 2015, 『これだけは知っておきたい！外国人相談の基礎知識』 松柏社.
- 内藤稔・杉澤経子ほか, 2015, 「『相談通訳・倫理綱領』策定に関する共同実践研究」 『多言語多文化ー実践と研究』 Vol.7, 182-215.
- 研究誌: 内藤稔・杉澤経子ほか, 2015, 「『相談通訳・倫理綱領』策定に関する「協働実践研究」 『多言語多文化ー実践と研究』 Vol.7, 182-215.
- CINGA地域日本語実践研究会編 2018, 『多文化共生の地域日本語教室を目指して』 松柏社